枕草子(1)

清少納言

『枕草子』の基礎知識

『枕草子』は**平安時代**中頃の**清少納言**による**随筆**。清少納言は歌人・清原元輔の娘で、一条天皇の※中宮・定子に仕えた女房だが、本名はわかっていない。

『枕草子』には、筆者が宮仕えを通して見聞きしたことや、四季の自然や人に対する鋭い観察・感性が、才気あふれる簡潔な文で表現されている。明るく知的な**「をかし」**の文学といわれる。

※中宮…后の称号。後に藤原道長の娘・彰子が中宮となると、定子の称号は皇后となった。

藤原道隆（兄）―定子……清少納言
定子＝一条天皇＝彰子
藤原道長（弟）―彰子……紫式部

	奈良	『万葉集』この頃までに成立
800	平安	
900	平安	『竹取物語』『古今和歌集』
1000	平安	『枕草子』『源氏物語』
1100	平安	
1200	鎌倉	『新古今和歌集』

随筆
筆者が体験したことや感じたことを、筆のおもむくままに自由に書き記した文章を随筆という。

古文の特色

●歴史的仮名遣い

①語頭以外のハ行の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「**わ・い・う・え・お**」
※語頭のハ行や、助詞「は」「へ」などはそのまま。

②「ゐ・ゑ・を」→「**い・え・お**」
※助詞「を」などはそのまま。

③「ぢ・づ」→「**じ・ず**」

④「くわ・ぐわ」→「**か・が**」

⑤助動詞や助詞の「む・なむ」→「**ん・なん**」

⑥母音（a・i・u・e・o）が連続するとき
・au（ア段＋う・ふ）→ **ô**
・iu（イ段＋う・ふ）→ **yû**
・eu（エ段＋う・ふ）→ **yô**

●古文の語句

古文には、「いと（とても）」のように、現代では使われなくなった語句や、「うつくし（かわいらしい）」のように、現代と意味が異なる語句が見られる。

確認テスト

(1) 次の文の(　)に当てはまる言葉をそれぞれ選びなさい。

『枕草子』は(①)の中頃に(②)によって書かれた(③)である。

ア 奈良時代　イ 平安時代　ウ 鎌倉時代
エ 紀貫之　オ 清少納言　カ 紫式部
キ 歌集　ク 紀行文　ケ 随筆

①〔　　〕②〔　　〕③〔　　〕

(2) 次の文の(　)に当てはまる言葉を選びなさい。

『枕草子』は、筆者の鋭い感性が才気あふれる簡潔な文で表現されており、明るく知的な「(　)」の文学といわれる。

ア ますらをぶり　イ たをやめぶり
ウ をかし　エ もののあはれ

〔　　〕

(3) 次の言葉を現代仮名遣いに直したものとなるように、解答欄に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

飛び急ぐさへあはれなり

飛び急ぐ〔　　〕

(4) 次の言葉を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

やうやう〔　　〕

(5) 次の古語の意味を選びなさい。

いと　うつくし

ア しみじみと趣深い
イ ちょっときれいだ
ウ とてもかわいらしい

〔　　〕